

## 論説文とは

森忠彦

ついでに、論説文とは何か、について話しておきましょう。決まった定義があるものはありませんが、創作文との違いは、何かのテーマについていくつかの事実（ディテール）を挙げながら論じ、最後は自分なりの考えや意見、提案をまとめた作文です。プロの評論家の批評文や新聞の社説などをお手本にするのは構いませんが、欠かせないのは筆者、つまりあなた自身の考えや意見が入っていないと、論説文としてはなりたちません。誰かの意見や、いわゆる天の声のような借り物ではない、筆者の意見です。ここでは、みなさんが今後、近い将来に挑戦する大学受験や就職試験を想定してみますが、そもそもそうした試験は何のために行われるのかを考えてみてください。決して美しい文章のコンテストを行っているわけではありません。大学や企業、組織が論説文を通して求めているのは、「この人物はどういう考え方をする人物か」を知る手掛かり、道具だということです。どこかの誰かの話ではなく、文章を書いているあなたがまさにどういう人物で、どう論理的な考え方ができるのか、を論文という手段を通して試しているのです。そして、その中から選ばれた人が、試験に合格するわけです。

つまり、他人に意見が伝わる、説得力を持った論文こそがよい論説文なのです。そのために必要なものは、まず、何かに対して自分の意見を言えるような身近なテーマを見つけること。できれば、ある程度の人が共通理解しやすいテーマがいいですね。新聞やテレビに流れている時事ニュースは、まさにひっかけ（フックと呼びます）としては効果的です。さらに自らの経験を使って話せる内容であれば、より説得力を持って書くことができます。みなさんは今、2013～14年という時代を生きているわけですから、そうした時代が反映されるようなテーマだと、自分の体験や経験も投影しやすいでしょう。

最後にその論文を書きたい、と思う理由付けをしっかりと表現すること。喜怒哀楽という言葉がありますが、そのどれでもいい、どれか1つの感情を心に持って、文章構成を考えてみてください。そこで沸々と体の中から湧き出てきた思いを、できるだけ冷静な言葉を使ってまとめてゆく。起承転結はそれほどはっきりしていなくても構いませんが、最後の結論は分かりやすい言葉でまとめましょう。

重ねて言います。論説文は自分が読み返すための日記や、特定された読者を想定した小説ではありません。特段、予備知識がない普通の人でも突然読んでも分かるテーマで、誤解のない言葉を使って、喜怒哀楽のどれかの思いを込めながら、あなたの考えを熱く、かつすっきりとまとめたものです。いくら独創的でも読者が理解できないような文章は失格です。論説文は誰かに読ませるために書くもの。わかりやすさが勝負なのです。